

沖合底曳網漁業が TAC 管理対象魚種の拡大や 海洋環境変動に対処するための要素技術

開催日：令和7年12月8日（月）

会場：東京海洋大学 楽水会館 対面講演会

参加費：無料



日本水産工学会 HP

当日、受付にて記名して頂ければ、日本水産工学会の会員でなくても無料で参加できます。

当日の飛び込み参加も認めますが、参加希望の場合、事前に kajikawa@fish-u.ac.jp までご連絡ください。

その際に、その後に開催する懇親会の参加希望の有無についてもご連絡ください。締切りは11月20日（木）とします。

概要

令和2年の改正漁業法の施行を契機に、現在、TAC 管理対象魚種の拡大が進みつつある。また、黒潮の大蛇行は7年9ヶ月振りに収束したものの、昨今の海洋環境の変動による漁獲対象魚種の分布変化は引き続き、継続することが予測される。今後、沖合底曳網漁業は、これらの変化への適切な対応が求められる。そこで、本シンポジウムでは、TAC 管理対象魚種の拡大や海洋環境変動が沖合底曳網漁業に与える課題を生産現場・資源管理の観点から整理し、持続可能な沖合底曳網漁業を支える水産工学的な対応方策について議論する。

まず、①沖合底曳網漁業の漁獲状況の変遷と TAC 管理対象魚種の拡大や海洋環境変動によって生じる生産現場での課題や②TAC 管理対象魚種の資源評価と資源研究者の立場から持続的な資源の利用のために必要だと考えられる対応策を明らかにする。また、行政の立場から、③漁業法に基づく資源管理の推進とその課題及び対応の方向性について報告する。さらに、④海洋環境の変動が漁獲状況に影響を与えていると推察されるスルメイカの事例の紹介と今後の海洋環境の変動の予測を示す。①～④の話題提供の整理を行った上で、生産技術の観点から課題克服のために必要となる要素技術に関する研究のレビューや事例とこれから求められる研究課題について提案する。

プログラム

開会挨拶 松下吉樹（日本水産工学会長）

13：00～13：05

趣旨説明 梶川和武（水産研究・教育機構 水産大学校）

13：05～13：10

座長：貞安一廣（水産研究・教育機構 開発調査センター）

1. 山口県以東機船底曳網漁業の現状と TAC 管理対象魚種の拡大に伴う課題、取り組んでいる資源管理について

13：10～13：35

宮本洋平（山口県以東機船底曳網漁業協同組合）、梶川和武（水産研究・教育機構 水産大学校）

2. 北海道沖合底曳網漁業の現状について

13：35～14：00

柳川延之（北海道機船漁業協同組合連合会）

3. 日本海西部海域の沖底資源の評価と求められる対策

14：00～14：25

寺門弘悦（島根県水産技術センター）

4. 北海道における TAC 拡大対象種の資源評価について

14：25～14：50

境 磨（水産研究・教育機構 水産資源研究所）

（休憩 10 分）

14：50～15：00

5. 漁業法に基づく資源管理の推進とその課題及び対応の方向性について

15：00～15：25

赤塚祐史朗（水産庁）

6. 対馬暖流の変動とスルメイカ産卵回帰の関係

15：25～15：50

広瀬直毅（九州大学）、山口忠則（長崎大学）

座長：塩出大輔（東京海洋大学）

7. 沖合底曳網漁業において TAC 管理対象魚種の拡大に求められる技術と課題

15：50～16：15

梶川和武、西翔太郎（水産研究・教育機構 水産大学校）、五味伸太郎（北海道大学）、鈴木勝也（日東製網）

8. 水産 DX の社会実装における現状と課題

16：15～16：40

水上陽介（オーシャンソリューションテクノロジー株式会社）

（休憩 10 分）

16：40～16：50

総合討論（40 分） 座長：梶川和武（水産研究・教育機構 水産大学校）

16：50～17：30

閉会挨拶 伊藤靖（日本水産工学会企画委員長）

17：30～17：35

コンビナー：梶川和武（水産研究・教育機構 水産大学校）、五味伸太郎（北海道大学）、塩出大輔（東京海洋大学）、貞安一廣（水産研究・教育機構 開発調査センター）